

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道148号 <small>おたり</small> 小谷道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点 自：長野県北安曇郡小谷村大字北小谷字穴平 至：長野県北安曇郡小谷村大字北小谷字下平			延長	4.6 km
事業概要 <p>一般国道148号小谷道路は、幅員狭小・線形不良箇所の解消、局所的な防災上の課題の解消、冬期交通障害の解消などを目的とした、延長約4.6kmの直轄権限代行による道路事業である。</p>				
S63年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H元年度用地着手	H元年度工事着手	
全体事業費	約253億円	事業進捗率	94%	供用済延長
4.1 km				
地域の防災面の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・小谷道路の旧道区間には、道路幅員5.5m未満の未改良区間や、トンネル、洞門、橋梁部など1車線区間などの隘路区間や、急勾配区間などの線形不良箇所が存在している。 ・急勾配区間を通過するため、冬期になると大型車等によるスリップや登坂不能が多発し、年平均7.6回(26.3時間)の交通障害が発生している。 ・また、当該地域は急峻で脆い地形・地質により、H7年度には豪雨等による大規模災害が発生しており、地域の日常生活に多大な影響を及ぼした。 ・当該道路は、北小谷地区から第2次医療施設である大町総合病院への唯一のアクセス路となっており、他に代替路がない。 ・フォッサマグナの西縁に位置し、急峻で脆弱な地形・地質となっており、山腹斜面は中生代の来馬層群を覆って崩積土層(未固結堆積物)が分布していること、また地質構造が複雑で岩盤の割れ目が多く地下水が浸透し風化が進んでいることから土砂災害を受けやすく、早急に対応が必要。【国道148号小谷道路防災効果検討委員会(H25.9)】 				
課題を踏まえた対策・事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・光明～下平間(延長3.4km)は、急峻な地形の姫川沿いに位置し、既存のトンネルや洞門が狭隘のため現道拡幅が困難であることから、トンネル、橋梁を主体の新設ルートで計画し、災害を受けやすい斜面を避けていることから防災上妥当。【国道148号小谷道路防災効果検討委員会(H25.9)】 ・穴平～光明間(延長1.2km)は、地形・地盤条件から谷側へ拡幅する計画で、限られたスペースで構築可能な軽量盛土(EPS、耐震性確認)で計画しており、崩れやすい山側の大規模な斜面对策を避けていることから防災面から見て技術的に妥当。【国道148号小谷道路防災効果検討委員会(H25.9)】 ・別線トンネルや橋梁等を整備することにより課題箇所を回避。 				
事業の効果等 ①災害時の迂回解消を含めた走行時間短縮等 (319億円(残事業=18億円)) ②幅員狭小・線形不良箇所の解消 ・幅員狭小・線形不良箇所が解消され、安全かつ円滑な地域住民の生活交通の確保が期待できる。 ③局所的な防災上の課題の解消 ・大規模災害時においても地域住民の生活交通など、当該区間を通行する交通の安全確保が期待できる。 ④冬期交通障害の解消 ・冬期交通障害の更なる減少が期待でき、冬期間においても信頼性の高い交通確保が期待される。 ⑤救急医療施設への「命の道」としてのアクセス性向上 ・大町総合病院へのアクセス性向上や、救急車利用時における現場到着までの所要時間短縮など、救命率の向上に寄与することが期待される。			費用 (残事業) / (事業全体) 9.2 / 351億円 (事業費: 9.0 / 347億円 維持管理費: 0.17 / 4.2億円)	

関係する地方公共団体等の意見

知事の意見：

- ・沿線地域にとって毎日の生に欠かすことのできない生活道路であるとともに、日常における緊急医療対策や災害時における緊急輸送路として、まさに「命を繋ぐ道路」である。
- ・狭隘部や急坂路の解消が強く望まれているので、事業継続を図るとともに、着実な事業の推進を強く要請する。

事業評価監視委員会の意見

対応方針については、北陸地方整備局原案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等

H9年度に事前通行規制区間が連続雨量100mmから80mmに変更

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成元年度に工事着手して、事業進捗率94%、そのうち用地進捗率100%となっている。

残事業の内容（北小谷字マムシ岩地先（L=0.3km）の舗装工事、(仮称)新姫三橋（L=93m）の上下部工事、北小谷字マムシ岩～字光明間（L=0.2km）の改良工事）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・北小谷字マムシ岩地先（L=0.3km）は、舗装工事を完成し、平成25年度に同区間の開通を図る。
- ・北小谷字マムシ岩～字光明間（L=0.2km）については、平成26年度の開通を目指し、改良工事及び(仮称)新姫三橋（L=93m）上下部工事を推進する。

施設の構造や工法の変更等

(仮称)新姫三橋における上部工架設工法の工夫により、コスト縮減を図っている。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性に変化なく、防災面の効果が見込まれるため。

事業概要図



※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。